

御蔵島に侵入した国内外来種ヒバカリの森林内での 生息記録

Records of the introduced Japanese keelback *Hebius vibakari* in the forests of Mikura-shima Island

徳吉美国

東京大学生物多様性科学研究室 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

MikuniTokuyoshi@gmail.com

はじめに

侵入した外来種の生息状況を把握することは、在来生態系への影響や管理を考える上で重要である。御蔵島にはヒバカリ *Hebius vibakari* が国内外来種として侵入している(Hasegawa 1999)。しかしながら、里では放し飼いネコがヒバカリを持ち帰ったことが報告されているが(野瀬 2021)、里から離れた森林内での本種の生息状況はほとんど報告されていない。筆者は、約7年間の野外調査の過程で、森林内でヒバカリ2匹の生息を確認したので報告する。

発見状況

筆者は2018年5月から現在にかけてほぼ毎月、御蔵島の森林内(全てのガイドコースとその周辺の林内)で外来哺乳類やオオミズナギドリの調査を行っており、その過程でヒバカリ計2匹を発見した。2021年9月28日に川田の都道(139.612119°E, 33.883528°N)にて、2024年8月7日に尾番の尾のガイドコース上(139.580731°E, 33.881960°N)にて発見した(図1)。どちらの個体も発見したのは日中だった。川田で発見した個体(図2)は100%エタノールで保存している。

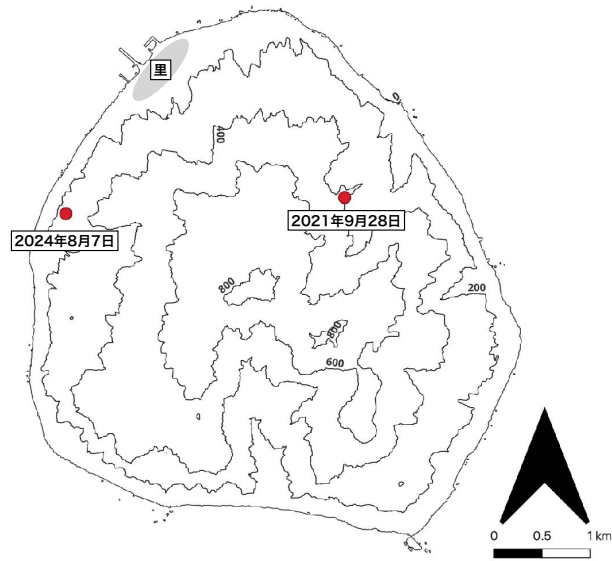


図 1 ヒバカリの生息が確認された場所と時期



図 2 2021年9月28日に川田で捕獲したヒバカリの写真

考察

以上の結果は、里から離れた森林内でもヒバカリが定着していることを示すと共に、本種が御蔵島に低密度に生息することを示唆している。今後、ヒバカリの発見場所や胃内容物の記録を積み重ねていくことで、御蔵島における本種の定着状況の実態や在来生態系への影響を理解することに貢献するだろう。

謝辞

本研究は御蔵島村の許可を得て行った。

引用文献

Hasegawa M. 1999. Impacts of introduced weasel on the insular food web. In H. Ohta (ed) Diversity of reptiles, amphibians and other terrestrial animals on tropical islands: origin, current status and conservation. p.129-154. Elsevier.

野瀬紹未. 2021. 御蔵島の「ネコ問題」をどう考える？ 質問紙調査と構造方程式モデリングからみる住民意識. *Mikurensis*, 10, 37-55.

